

かんが
 考えてみよう：国家のしくみ (mechanism/organization) はどのように
 作られたのでしょうか

空欄を埋めましょう！ (Fill in the blanks !)

§1 古墳時代

(1) (1 大和政権) の誕生

① 3世紀後半ごろ…近畿地方の大和(奈良県)を中心とする強力な国が生まれた

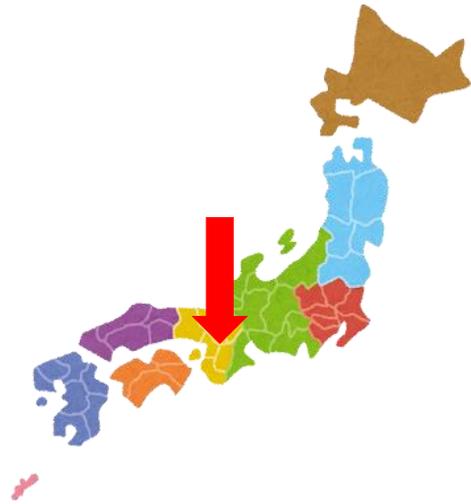
→西日本にまで勢力を拡大…5世紀ごろには九州北部から中部地方まで支配した

※この政治権力を(1 大和政権)(大和朝廷)と呼ぶ

② 大和政権のしくみ(organization)

王を中心として有力な豪族たちによって作られた

→王は「大王」と呼ばれた



(2) (2 古墳) の造宮(construction)

有力な各地の王や豪族たちは、土を高く盛りあげてつくった大きな墓に葬られた

→このような墓を(2 古墳)という

※4世紀～7世紀ごろまで各地に古墳が作られた=この時代を古墳時代とよぶ

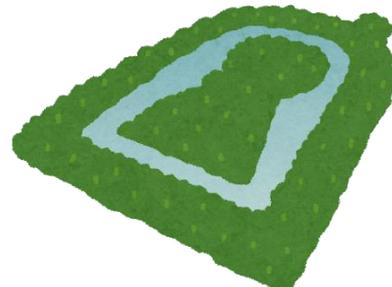
(3) 大陸文化の伝来(conveyed)…大和政権は大陸の文化を積極的にもとめた

大陸や朝鮮半島から来た渡来人と呼ばれる人々により、様々な文化が伝えられた

(例) 農業技術(agricultural technology)

はたおりの技術(weaving techniques)

儒教(Confucianism)、仏教(Buddhism)など



古墳(前方後円墳)

§2 律令国家の形成

(1) 6・7世紀の東アジア情勢…中国で強力な統一国家が誕生 = 隋 → 唐

(2) 6・7世紀の日本

① 有力な豪族同士の争いが続いた

→ 中国の影響を受けて、中央集権の国づくりを目指した

② 女帝の推古天皇が即位(593)…(3 聖徳太子)(厩戸皇子)が摂政になった

・聖徳太子は天皇を中心とした中央集権の政治体制を整えた

→ (4 冠位十二階) や (5 十七条の憲法) を定めた

・中国に使節を送り、大陸の政治や文化を積極的に学んだ(= 遣隋使)

③ (6 大化の改新・乙巳の変)(645)

聖徳太子の死後、有力豪族の蘇我氏が独裁的な政治を行った

→ 中大兄皇子や中臣鎌足らが蘇我氏を倒した = (6 大化の改新・乙巳の変)(645)

⇒ 天皇による中央集権的な政治をめざした

※ 中大兄皇子はその後即位して天智天皇となった

④ (7 壬申の乱)(672)…天智天皇の死後、後継者争いがおきた

大海人皇子が勝った → 即位して天武天皇となった

⑤ (8 大宝律令)の制定(701)

中国を手本にした、律令に基づいた政治を行った

※ 律令に基づいて政治を行う天皇中心の中央集権国家を律令国家という



▲ 聖徳太子

書いてみよう： 律令国家ができるまでをまとめてみよう。

(例) 3世紀ごろ、大王を中心として有力な豪族たちが大和政権を作った。

6世紀ごろまで、豪族たちの争いが続いた。そのころ、中国では、統一国家が誕生した。

推古天皇と摂政の聖徳太子は、中国のような中央集権の国を作ることにした。

そのため、遣隋使を送って政治や文化を学び、冠位十二階や十七条の憲法を作った。

8世紀には、大宝律令という法を作って、律令に基づいた政治を行った。

キーワード： 大王 中央集権国家 律令